

テーマ：国家論

〈報告〉

一井昭（中央大学教授）「グローバル化と国民国家－国家独占資本主義論の有効性－」

〔一井昭・渡辺俊彦編著『現代資本主義と国民国家の変容』中央大学出版部、2009年所収〕－配付資料1

なお、ほぼ同時期に類似の主張をした一井昭「経済のグローバル化と国際機構」〔篠田・西口・松下編『グローバル化とリージョナリズム』御茶の水書房、2009年所収〕を配付資料2とした。

配付資料1の説明のためのレジュメ

はじめに

- 1 前叢書の理論的到達点 (1) 叢書全体の課題設定 (2) 鶴田満彦論文の提起  
(3) 中谷義和論文の提起  
\* 叢書全体の課題設定のうち「現代のグローバル化」に含まれている「生産力的必然性」と「国民国家の危機」についての検討が必要 (31頁)  
\* 鶴田論文にある「国家の市民社会総括の過剰から〔現代国家の〕危機を導出されている点」に疑問を提出 (32頁)  
\* 中谷論文の中心的展開はヘルドの見地にあると考えたが、氏の積極的見解が不明とした (37頁)→脱稿後、中谷「グローバル化と現代国家－ひとつの視座－」(『立命館法学』314号)の「一応の結論」で積極説を主張(註2)に修正 (62頁)
- 2 グローバル化をめぐる論点 (1) ヘルドとマグルーの見解 A 現代のグローバル化の特質 B 国民国家の厳存 C 「コスモポリタン民主政」の主張  
(2) ハーストとトンプソンの見解(トンプソンの批判第1・第2点)  
(3) 「グローバル化」と国民国家をめぐる論点についての若干の整理  
\* ヘルドとマグルーの見解の特徴(国民国家の厳存を肯定、長期にわたる「コスモポリタン民主政」の提起)  
\* ハーストとトンプソンの見解の特徴(とくに、トンプソンの「グローバル化積極説」に対する痛烈な批判→アンガス・マディソンの統計60頁も裏付資料となる)  
\* SPL 危機脱却模索と国家独占資本主義(拙著『ポリティカル・エコノミー』桜井書店、2009年、130-136頁)→国際機構の評価←後出4にも関連
- 3 蓄積レジームと福祉レジーム (1) 類型化の諸説 (2) ボブ・ジェソップの提起  
\* レジームを「制度と政策の包括」概念と考えるが、問題はないか  
\* ボブ・ジェソップのいう Nation-State から National-State 移行の意味  
\* レギュレーション派のいう資本主義の類型化論や多様化論には賛同できない
- 4 「世界大の」国家独占資本主義か  
\* 北原・小松両氏の国家独占資本主義論の評価 (59-60頁)、配付資料2の consociationalism (主権協調主義)、SDR の評価 (80-81頁)  
\* 「パクス・アメリカーナ」は国家独占資本主義の第2、第3形態か (61頁)

おわりに